

2024 年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2025 年3月
玉川小羊幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・子どもたちの心の目になって豊かな対話を創り、子どもたちが自ら育つ主体性を育む。
- ・子どもたちの遊びを深め、広め、高めて、子どもたちが自ら好奇心を持って探求し、
友だちと楽しく学ぶ力を育む。
- ・子どもたちが様々なものに出会う行事やわくわく体験を創り、子どもたちの生きる力、
友だちとの絆を築くように育む。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

実践を通して、子どもたち一人ひとりの園生活がいきいきと豊かなものになるように取り組む。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	対話 (子どもの声を聞く)	A	2023 年度の終わりから、2024 年度を通じて、加藤繁美著『保育の中の子どもの声』を中心テキストに園内研修を行い、「対話とは何か」を考え、教職員間でもディスカッションする中で、保育への新しい視点を得ることができた。 日々の保育実践においても、子どもたち同士の話し合いや対話が活発に見られるようになってきている。中には、他の子の思いやことばを代弁する場面もあり、互いに助け合う様子が見られている。教師も対話を通した保育実践に手ごたえを感じている。
2	キリスト教主義教育保育	A	「キリスト教保育の幼稚園として」という視点で行事の見直しなども行った。日々の賛美や他者のために祈ることなどを通じて、子どもたちの心に、キリスト教が根づいてきている。 クリスマス行事では、プログラムを全クラスで作り上げる「聖誕劇」のみにしぼったことで、子どもも保護者もクリスマスを通した神の恵みを心から受け取り、クリスマスの意義を感じ取ることができた。

3	指導計画の作成と評価	A	各クラスの週案や園全体の日案を教職員で共有することができるよう工夫した。毎週末に各クラス担任が、今週の振り返りと共に、来週の予定を報告し、園全体での連携がスムーズに図れるように心掛けた。 担任が一日、別のクラスを担当する「クラス交換」の時を持ち、普段とは違うクラスを担当することで、視野や保育観を広げる機会も持った。
4	環境教育	A	環境教育の取り組みについての詳細は、『環境教育報告』の通りである。 本年度の環境教育を通して、子どもたちは自然への気持ちを育み、様々な気づきが生まれていた。野菜や花を育てたり、収穫したものを調理する等のプロセスを通じて、園児本人が達成感を得ると共に、周りの人々にその喜びを分かち合う姿が見られた。 次年度に向けては、子どもたちが“自然との対話”を通して、自ら気づき、学びをさらに深めていくことができるように発展させていきたい。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	全体を通して、昨年度設定した「今後取り組むべき目標」を意識して取り組み、対話する保育を学んで実践するだけに留まらず、子どもたちの成長へとつなげることができ、しっかりとした成果を生み出している。 課題設定についても数年間、同じ課題を継続させたり発展させたりしてきたことにより、教師と園児双方に積み重ねや、段階を踏んできているからこそその成果が見られてきている。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組むべき目標とそのための課題

子どもたち一人ひとりの園生活がいきいきと豊かになるように目指す。そのため、子どもたちだけではなく、教職員も共に成長することを目指す。については、以下のことを充実させていきたい。

	課題	具体的な取り組み
1	対話(子どもの声を聞く)	本年度の研修や保育実践をふまえて、対話による保育を深めてゆきたい。“子どもの声を聞く”ことを通して、子どもたちの心の目になって、子どもたちの中から生まれた発想をくみ取り、子どもたちが自ら育つ道を拓いていきたい。
2	キリスト教主義教育保育	全クラスで作り上げる「聖誕劇」は継続していきたい。「キリスト教の幼稚園として幼稚園教育の現場において何ができるのか」については、引き続き問い続け、キリスト教保育の実践を深めていきたい。他園でのキリスト教保育の実践についても意見交換や学ぶこと等を通して視野を広げ、本園での実践に還元していきたい。
3	指導計画の作成と評価	本年度実施できた、週案や日案の共有を継続しつつ、園内での公開保育等を通じて互いの保育を見て、教師間でも学び合いたい。

6. 学校関係者評価委員会の評価

1 月 30 日(木)学校関係者評価委員会の委員を招き、公開保育および意見交換を実施した。学校関係者評価委員からの主な評価は、以下の通りである。

<学校関係者評価委員からの主な評価>

・園生活において、丁寧な対話がなされています。

教師が導くことによって、子どもが主導で対話する場面も見られて良かったです。

・小羊幼稚園の子どもたちは、リーダー性が身についていると思います。

やりたいことを見つけたり、自然と人が集まり集団での遊びが始まったりと自主性が育っています。

・卒園児としては、小羊幼稚園の子たちは優しい子が多いと感じています。自分も安心感がある中で、園生活を送ることができ、感謝しています。普段の園生活においても対話の場面も多く、小羊幼稚園の子たちは人間関係の作り方が上手だと思っています。

・環境教育では、さまざまな遊びを通して、自然について学ぶことで、子どもの感性が豊かに成長していると感じています。

・環境教育アトリエの活動で行った、「葉っぱビンゴ」のおかげで、普段歩いてる時も、目についた葉っぱについて親子で話すようになり、子どもだけでなく、保護者である私も葉っぱに興味を持つことができました。

おもちつきの時は、ただもちをつくだけでなく、おもちについて行事を通して教えてもらい、そのことを帰ってきて私に教えてくれました。遊びや楽しいことをしながら学ぶことができて、とても良かったです。

・娘が入園して間もない頃、母子分離にて手こずっている時に、「本人の気持ちが落ち着くまで付き添ってくださっていて大丈夫ですよ」と先生が優しく声をかけてくださって、無理強いせず子どもの気持ちに寄り添った対応をしてくださり、当時とても安心したことを覚えています。保護者として、親子共々小羊幼稚園で成長させていただくことができ感謝しています。

・保護者として、子どもが大きく成長した場面は、一泊保育（年長組のお泊り保育）だと思います。年少時からずっと「一泊保育に行きたくない」と言っていて、当日になっても不安そうにしていたのに、帰ってきたら「一泊じゃ足りない!もう一日泊まりたかったー!」と、楽しそうに一泊保育でのことを話してくれました。その姿を見て、この幼稚園での三年間でとても成長させてもらったと感じました。特に生活面において、一泊保育を目標にして頑張ることで、できることがとても増えました。

・小羊幼稚園の先生方はどの先生も、笑顔で明るく子どもたち一人ひとりに対して、丁寧に向き合ってくださいるので、毎日安心して送り出すことができました。また、どの先生も気さくで話しやすく、何か心配なことがあった時には相談に乗ってくださったりと、保護者の私たちにも寄り添ってくださることに日々感謝しています。